

テーマ	意見交換・情報交換について	
質問	(1)現在発生している又は感じている課題で情報交換したい内容について	(2)(1)の課題に対しての取組実績・取組予定について
和歌山県警察本部	①検案医師の確保について ②県・各市町村医師会等との連携について (医師会として検案を担当していただいているケースあり)	—
和歌山地方検察庁	—	—
和歌山海上保安部	—	—
和歌山県医師会	①死因の特定について 検案を行ううえで、長らく病院通っていないときに病歴がわからないことがある 通院していれば検視において薬袋が調べられ、病院から聞き取ることができる。 反して、病院への通院歴がない場合は原因が分かりにくい。 ②非定型縊死等について 複雑な死に方、首つり等で足がついている場合の判断が難しい。 殺された場合は首に爪痕等がつくので、そういった場合は判断し易いがそうでない場合、苦しみ中でどのように息を引き取ったのかと考える時がある。	—
和歌山県歯科医師会	口腔顎顔面歯科所見による身元確認は生前の歯科診療情報のカルテ等の資料の照合によって同一人物かの鑑定を行います。 照会において最も重要・確実な資料は歯頸レントゲン写真で、硬直時や焼死体、腐乱死体の歯頸レントゲン写真の入手・撮影は困難である。 和歌山県では平成6年から法医学教室・県警鑑識課の協力によってレントゲン撮影機を活用し、本来なら撮影ができないような身元不明死体でも撮影を行ってきた。 しかし、機材は27年が経過し、部品の調達が困難でデジタル化やデータベース化に対応できていない。	往診用歯科レントゲン写真撮影機で撮影した写真をデータベース機構に対応するため、県警鑑識課に依頼している。本レントゲンは全国に普及の必要があると考えている。 死体対応のレントゲン撮影機の作成を業者に依頼している。
和歌山県病院協会	—	—
和歌山県立医科大学医学部	①死体検案医の不足について 死因究明の最前線は死体検案である。現在、異状死体における死体検案は主として開業医もしくは勤務医にたよっているのが現状である。しかしながら、死体検案は昼夜・休祝日を問わず発生することから各検案医に大きな負担をかけている。そこで、検案医をいかに確保することが死因究明の充実の第一歩である。 ②死因究明から得た情報の還元について	①について 和歌山県立医科大学法医学教室に2名の医師がいることから、この2名も死体検案に協力する。 ②について 個人情報の観点から個々の解剖事例の情報を公開することはできない。しかしながら、統計的データについては、倫理委員会も審査を経て公開することは可能である。実際、一部のデータについては公開している。
和歌山県	—	—